

# オンラインによる初年次キャリア教育の成果と課題

朴美善†

## 1 はじめに

日本における初年次教育（First-Year Experiences）は、2000年代以降多くの大学で急速に導入されるようになってきている。文科省の調べでは、全国で初年次教育を実施する大学は、2006年に501大学（約71%）から2017年においては722大学（約97%）にまで増え、現在はほとんどの大学が初年次教育を実施している。

経済学部では、1年次に初年次教育の一環として「フレッシュマンセミナー」が必修科目として設置されている。授業の主な内容としては、大学生活への適応、さまざまな知識やスキルを身につけるための学びの手法、および社会科学を学ぶ楽しさを知るための学外研修などが含まれていた。

ところで、本年度（2020年）は新型コロナウイルスの感染拡大にともない、前学期のすべての授業をオンライン上で行ったため、これまでの教授方法の一部を変更せざるを得なくなった。著者はフレッシュマンセミナー授業をMicrosoft Teams（以下、Teams）アプリを利用した双方向のリアルタイム・対話形式で実施した。

本報告では、初年次教育における重要な構成内容となっているキャリア教育について、前期のフレッシュマンセミナー授業を振り返りつつ、「オンラインによる初年次キャリア教育の成果と課題」について報告する。

## 2 初年次キャリア教育の意義

### 2.1 初年次教育とは

中央教育審議会答申「学士過程教育の構築に向けて」（2008年12月）によると、初年次教育とは、「高等学校や他大学からの円滑な移行を図り、学習及び人格的な成長に向け、大学での学問的・社会的な諸経験を成功させるべく、主に新入生を対象に総合的に作られた教育プログラム」、あるいは「初年次学生が大学生になることを支援するプログラム」である。

初年次教育の内容としては、大学によってさまざまなプログラムの導入がなされているが、一般的にはレポート・論文の書き方などの文章作法、プレゼンテーションやディスカッション等の口頭発表の技法、大学内の教育資源（図書館を含む）の活用方法、学問や大学生活全般に対する動機付けのためのプログラム、論理的思考や問題発見・解決能力の向上のためのプログラム、メンタルヘルス等、精神的・肉体的健康の保持に関する取組み、などによって構成されている。

### 2.2 初年次教育におけるキャリア教育の重要性

前述のとおり、現在日本のほとんどの大学において初年次教育が実施され、多くの大学の初年次教育関連科目の授業計画（シラバス）を調

べたところ、キャリア教育が導入されているところも多い。

濱名(2007)は、初年次キャリア教育について「学生たちが、自分の個性や適性を自己分析し、自らの価値観・人生観や将来の方向性を考え、動機や目的意識を形成することが必要であるという点では、キャリア教育と初年次教育の内容に共通する部分大きい」と述べている。

確かに、充実した大学生活を送るためには、自分の個性や、適性について自己分析を行い、将来の自分の「ありたい姿」、とりわけ、ご自身のライフデザインを早い段階から考え、計画することが重要である。

また、松本(2010)は「初年次教育におけるキャリア教育とは、学士課程教育の周辺的な問題ではなく、学士課程教育への動機づけをめぐる、学士課程教育の本質的な問題である。だからこそ、初年次教育におけるキャリア教育は重要なものであり、その成果は、教養教育、あるいは導入教育、専門教育への動機づけ、ひいては学士課程教育全体の教育成果へとつながっていくものである」と述べている。

ところで、新入生の場合、将来的に教員や医師を目指し、在学中に関連資格を取得したい、という明確な志望を持っている学生を除くと、多くは卒業後のビジョンをもたずに入学している、と言われている。

また、大学に入学したばかりの新入生たちは、新しい大学生活への期待と不安を併せ持つ。そこで、初年次教育が担う役割として、新入生が高校生活から大学での学びや生活へと順調に

移行できるように支援するとともに、キャリア意識の促進を通じた自己認識の増進、知識の習得に対するモチベーションの向上、および将来ビジョンの形成に関する動機付けを与えるツールとなることが期待される。

特に、コロナ禍の影響で普段どおりの大学生活ができず、学習意欲の低下や将来に対する不安が増加する中で中途退学や休学者の増加も懸念されている。よって、今年の初年次教育においては、従来よりも学生の精神的な不安やストレスを解消しつつ、学生がキャリア形成や人生設計における大学での学びと生活の役割および意義について認識できるように支援することが重要であると考えられる。

### 3 オンラインによる初年次キャリア教育の実践報告

#### 3.1 オンラインによるフレッシュマンセミナーの授業内容と実施方法

表1と表2では、本年度のはじめに経済学部が初年次教育の一環として開講する予定であった「2020年度前期フレッシュマンセミナーの授業計画」(Webclassで提示したシラバスの抜粋)と、オンライン授業への切り替えによって実際に筆者の授業で用いた授業内容をそれぞれ示している(表2では、シラバスの概略的な標記に加えて、授業で実際に取組んだ内容について加筆している)。

表1 2020年度前期「フレッシュマンセミナー」のシラバス(学部共通)

授業回	学習テーマ
1	オリエンテーション・学び合う関係を築く
2	大学・大学生・大学生活について知る
3	入学後すぐの悩みやトラブル、災害、不調への備えについて

4～6	学外研修
7～8	アカデミック・スキルの基礎を身に着ける
9～10	キャリア形成の基礎について知る
11	学外研修のふりかえり
12～13	論理的思考の基礎
14	前期ふりかえり

表 2 2020 年度前期「フレッシュマンセミナー」(オンラインによる授業の主な内容)

授業回	学習テーマと主な内容
1	オリエンテーション ・ 自己紹介(教員と学生)と授業内容に関する説明, 授業の実施方法に関する説明
2	・ オンライン授業受講のルールとマナー ・ オンライン授業のツール(Teams)の使い方 ・ 大学での学びと生活への適応, 高校と大学の違いについて説明
3	・ 図書館の利用方法と文献, 情報の検索 ・ リアクションペーパーの書き方
4	レポートの基礎① ・ レポートと感想文との違い ・ レポートの作成方法とレポート作成時の注意事項
5	レポートの基礎② ・ レポートの構成 ・ 参考文献の書き方など
6	キャリア形成の基礎① <u>自分のキャリアについて考えてみよう!</u> ・ なぜ, 今キャリアについて考える必要があるのか, を説明し, 受講者の考えを確認する ・ 経済・雇用や就業環境などが大きく変化する現代社会において, 自分がどのような道に進みたいのか, 自分はどのような人生を送りたいのかについて考え, 計画を立てることの重要性, また, 卒業する時に, 充実かつ納得できるような4年間の大学生活を送るために, 今から自分のキャリアについて考える必要がある, ということを説明する
7	キャリア形成の基礎② <u>キャリアにつながる大学での学びと大学生生活の送り方</u> ・ 城西大学における資格対策講座, 留学や海外研修などのグローバル人材育成, および女性人材育成への取り組みや, キャリアに関わる科目の紹介や奨学金制度など, キャリアサポート体制について紹介
8 ～ 11	学生による発表, 感想や意見交流(1日4名) ・ 発表の主題: ①「将来どのような人生を送りたいか」, 「自分にとって最も幸せであることや実現したい夢」 ②「キャリア形成や充実した大学生活を送るための学び, 活動についての具体的な計画」
12	大学生の基本的素養: メールの書き方やマナー ・ メールの書き方やマナーについて説明する ・ 実習: 自分の発表内容をまとめ教員に送信する *前期のふりかえり

表1と表2で示しているように、筆者は、本来対面授業で実施される予定であった学外研修の授業内容を、初年次キャリア教育の内容に変更した。その主な理由は、すでに述べたとおり、通常の大学の授業や活動を体験できなくなった今年の新入生にとって、大学での学びと生活の意義を認識する上で、キャリア教育を通じた自分の将来に対するビジョンの形成が重要だと考えたからである。

実際、初回の授業中に、自分の過去、現在、将来について自己紹介をしてもらったところ、「将来どのような仕事に就きたいのか、または自分はどのような職業に向いているのか、について真剣に考えたことがない」、「自分の短所は、人見知り、コミュニケーションが苦手であること」など、多くの参加者からキャリア意識の低さが見られた。また、現在不安に思っていること、もしくは困っていることについて質問したところ、「友達ができなくて寂しい」、「サークル活動や大学の様々な活動に参加することができなくて、大学生になった実感がない」、「オンライン講義についていけるのかが不安である」など、多くの学生さんが孤独感や緊張感などの精神的ストレスを抱えていることが分かった。

このような参加学生の状況を踏まえ、本ゼミでは、教員による大学の学士課程での学びと生活に必要な基礎的知識やスキルに関する内容について説明すると同時に、ゼミ生らがお互いに意見や情報を交換できるように、発表と議論を中心とする双方向のリアルタイム形式の授業に取り組んだ。

### 3.2 オンラインによる初年次キャリア教育の成果

前期のオンラインによるフレッシュマンセミナー授業の実践を踏まえた成果と課題につ

いては以下のようにまとめられる。

まず、レポートの内容や作成方法などの基礎知識、およびプレゼンテーション能力やメールの書き方など、アカデミック・スキルの習得においては期待された効果が得られたと考えられる。

次に、授業における学生の発表や議論の内容から、参加者のキャリア意識を高めることには一定の効果があった、と考えられる。それは前期授業の最終回において、全員に授業の感想について伺ったところ、「自分自身の過去について振り返ると同時に将来について考えるきっかけとなった」、「自分自身の性格や能力について評価でき、人の前で自己PRすることの大切さを学んだ」、「より充実した大学生活を送るために、どのようなスキルを身につけるべきであるかについて考えるようになった」、「政府による女性活躍推進に向けた取組みや城西大学における女性人材育成に向けたサポート体制について教えてもらい、今後自分のキャリアプランに参考になった。」など、大学の生活や将来への動機付けにつながる感想が多かった。他方で、最初の頃は、発表者に質問やコメントをすることは少なかったが、授業の中盤以降からは多くの学生さんが質問をしたり、自分の意見をのべたり、するようになっていたことも、学生さんの学習意欲の高まり、ディスカッション能力の向上を表すものであったと考えられる。

また、オンライン授業中に同じ趣味などを持っている参加者同士で、授業以外でもLINEなどを利用し、オンライン上のつながりを持てることもあった。

### 3.3 オンラインによる初年次キャリア教育の課題

上述のように、オンラインによる初年次キャリア教育は授業中に発表を行うことや、発表者

に質問をしたりしながら議論をすることによって、コミュニケーションへの自信を高めることには、一定の効果が見られたものの、多くの課題もある。

例えば、当初の計画においては、学生のコミュニケーション能力を向上させるためのディスカッションやディベートなどのプログラムが組み込まれていた。しかし、対面授業からオンライン授業に変更されたことによって、筆者も学生も慣れていない側面があり、前期の授業で十分に実施することはできなかった。

また、コミュニケーションをとるために、お互いの顔を見ながら話すことが大切であると考え、授業ではできるだけ web カメラを「オン」にすることを推奨したが、叶わなかった。参加者から「パソコンに Web カメラが搭載されてない」、または「顔を見せること自体に抵抗を感じる」などの意見もあったため、強制することはしなかった。参加者の反応や表情が見えない中で授業を行ったので、対面授業と同様の学習効果を得ることには至らなかった部分もあると考える。

#### 4 おわりに

本報告では、前期のフレッシュマンセミナーの授業をふりかえり、筆者が、キャリア教育という視点から参加者の動機付けや能力形成を目的に構成、実施したオンライン授業の内容、および成果と課題を整理した。

前期授業に対する参加者の感想からは、本授業が目指していた、初年次教育におけるキャリア意識の向上、将来ビジョンの形成とそれに向けた大学での学びと生活の動機付け、という側面では一定の成果があったと言える。また、プレゼンテーションやディスカッション、レポートやメールの書き方、などのアカデミック・ス

キルの向上にも一定の成果を得られた。

その一方で、初年次教育、さらにはキャリア教育における重要な構成部分であるコミュニケーション能力を向上させるという側面では、オンライン授業の限界を感じる部分もある。とりわけ、発表者の表情やしぐさ、聴き手の反応などを直接確認することで養われると思われる「観る力」や自分が発表する際に自分の発言や行動が他者にどのように映っているのかについて考える「感じる力」の養成には一定の限界があったように思う。

#### 参考文献

- 中央教育審議会第 67 回総会「学士過程教育の構築に向けて(答申)」(2008 年 12 月 24 日).  
 濱名篤(2007)「日本の学士過程における初年次教育の位置づけと効果—初年次教育・導入教育・デジタル教育・キャリア教育—」『大学教育学会誌』29(1):36-41.  
 松本浩司(2010)「初年次教育におけるキャリア教育の意義と課題」『教養と教育』(10),18-23.